

## 【討論】

反対 那須英二 議員

可決 議案第4号

賛成 横井克典 議員

高い保険料と窓口負担の増加で、市民の金銭的負担は既に限界である。  
国民健康保険と同様に現行制度での維持は困難なため、抜本的な見直しが必要不可欠である。

討論

本会計は9億2,189万円で前年度比6,297万円増。高齢化に伴う被保険者増と医療費動向を踏まえたものである。広域連合のもと、市が徴収・資格管理を担い適切に運営。安心の医療と地域を支える妥当な予算である。

反対 那須英二 議員

可決 議案第5号

賛成 横井克典 議員

高い保険料と窓口負担の増加で、市民の金銭的負担は既に限界である。  
国民健康保険と同様に現行制度での維持は困難なため、抜本的な見直しが必要不可欠である。

討論

本会計は41億1,430万円で前年度比2億3,610万円増。給付費約39億円は高齢化に対応。一方、地域支援事業は減額で予防強化が課題である。財源は確保され、介護を支える妥当な予算である。

反対 那須英二、佐藤仁志 議員

可決 議案第6号

賛成 横井克典 議員

収入で維持費すら賄えず一般会計に依存。平坦な地形特有の維持や更新の負担が甚大である。低密度地域での管路敷設は非効率であり、国が推奨する合併処理浄化槽への転換が急務である。巨大地震の液化化被害は救助活動を妨げ修復費も莫大である。

討論

本会計は26億6,202万円で前年度比約2億円増。維持管理と整備更新に約13億円を計上し、財源も確保。下水道の安定運営と将来投資の両立が図られており、生活環境と水質保全の観点からも、妥当な予算である。

反対 加藤明由 議員

可決 議案第7号

賛成 鈴木りつか、板倉克典、横井克典 議員

年額680万円超の議員報酬は近隣と比べ割高であり「なり手不足」を理由とする値上げは不適切である。成果報酬であるべき議員報酬が一般職員の給与改定に連動し、実績に関わらず自動で引き上げられる仕組みはモラルハザードを招く。

討論

審議会の答申に基づき報酬改定が行われるものであり、その判断は尊重すべきである。前回改定から9年が経過していることに加え、今回の改定率である1.4%も社会情勢等を踏まえた適当な水準であると判断する。

反対 加藤明由 議員

可決 議案第8号

賛成 鈴木りつか、横井克典 議員

借金を増大させる経営悪化は、民間なら報酬カットが当然である。官製談合や国費返還等、不祥事が相次ぎトップの責任は重大である。損害のマイナス情報を参酌しない上での引き上げは撤回し、ゼロベースで再審議するべき。

討論

審議会答申に基づく制度的な給料改定であり判断は尊重すべき。前回改定から9年が経過し、1.4%の上昇も社会情勢等を踏まえ適当。一方、官製談合等による道義的責任は、本件と切り離して判断すべき。

反対 佐藤仁志 議員

可決 議案第14号

賛成 横井克典 議員

登記の有無に関わらず、49年の占有による借地権の財産価値を認めるべき。既に土地代の2倍超の地代を払い、満額買取は二重の利益供与にあたる。  
法的理論武装を欠く無防備な状態での調停は市民への背信行為である。

討論

弥生小学校の土地問題について、調停により解決を図るものである。学校用地は子どもたちの学びを支える重要な基盤であり、安定確保は市の責務である。  
公正な協議により合意形成が図られることを期待し賛成する。

反対 那須英二 議員

可決 議案第18号

賛成 佐藤仁志 議員

均等割値上げや新設納付金等の負担増は、子どもが多いほど負担が増す少子化対策に逆行の仕組みで、低所得者へのしわ寄せも免れない。保険料上乗せは国の公費で賄うべきである。市民負担は既に限界であり抜本的な見直しが必要である。

討論

賛成は手放しではなく苦渋の決断。国民健康保険は均等割等により子育て世帯の負担が重く、本来は国費負担への転換が必要。  
条例は次善の策にとどまるが、否決は行政運営に支障を来すため賛成し、制度見直しを強く求める。

反対 那須英二 議員

可決 議案第25号

賛成 伊藤千春 議員

中学校給食費の引き下げ幅が不十分である。小学校給食費が1食60円の負担になる一方、中学校は370円に据え置かれている。近隣自治体が無償化等に踏み切る中、市は独自財源の上乗せに消極的である。  
中学校給食費の更なる軽減を強く求める。

討論

物価高騰の影響を踏まえ、市民生活の負担を抑制しつつ安定的な行政運営を図る補正予算である。  
給食の質を維持しながら保護者負担の増加を抑える措置は適切であり、計上経費も事業継続に必要な不可欠であることから妥当と判断する。